

IP NEWS

Interior Planners News

CONTENTS

- 2008年度 HIPA WORKS
- 会員・賛助会員紹介
- 2008・IPEC
- 特集：インテリア対談
北海道の若手が語る
「今感じている事・デザインするという事」



2008年度活動に想う

北海道インテリアプランナー協会・HIPA 会長 河村 利枝子

HIPAは、設立18年を迎えます。100名を超える会員と36社を数える賛助会員・企業に支えられ、活発に情報交換セミナー・見学会・イベントを実施しております。昨年は、地域発信のデザインイベント「札幌デザインウィーク」で2つのセミナーを催し11月開催されたIPEC2008(日本インテリアプランナー協会主催)に2点の作品を出展され優秀賞を受けたことは全国的にHIPAの存在をアピールできプランナーの普及につながりました。また、1月にはデザイナーの育成を目的に、協会員による(株)アモウの製品「すいえんくん」のデザインコンペが行われました。2月の道新大マンション展に於いては、会員7名が講師ガイド役を務めました。各委員長や担当者におかれましては皆さん積極的に参加いただきありがとうございます。昨年9月よりHIPAメーリングを新しく開設し会員の皆様方への情報発信や会員相互の交流の場がもて地方の会員からの声も伝わるようになりました。今後メールを通じて広く会員皆様方の意見を取り入れ会の運営に反映していきたいと考えております。

世界的経済不況の中社会の様々な分野で地球環境を考えて地産地消が求められております。この社会的な取組みの中で当協会でもインテリア空間に於けるエコを考え、道産材の活用と地場産業の育成に積極的に関わり今後も活動していきたいと思っております。

事務局 事務局長 佐藤 利明

平成20年度も3月で終了いたしました。ご存知のように激動の一年でありました。皆様にかかれましては何かと実感した事が多々お有りとの事と存じます。しかし、当協会の一年の活動を振り返りますとなかなか活発で有ったと認識しております。

会長、副会長をはじめ各委員会の活動は凄いなものでした。事務局として感じることは会員の減と増の動きが気になりました。正会員は62名 準会員は45名 賛助会員は35社が21年2月現在の会員数です。正会員の退会者は毎年数人いますが、準会員・賛助会員は新入会が顕著です。これからも皆さんのお声掛けで多くの入会を期待いたします。各委員会の方々の日頃の活動に心から感謝いたします。

普及委員会 委員長 白鳥 孝

普及委員会では、IP資格試験の案内と試験対策の講習を主な活動としており、2008年は5月より建築課程のある大学、及び専門学校への資格案内と、ホームページにおいて、随時試験の案内を掲載しながら広報活動を展開しました。8月にはアントニ・オガウディーの建築研究で知られる 田中裕也さんのセミナーを共催し、建築設計者に向けたIPの宣伝も行いました。10月の直前講習会では5人の申込みがあり杉山さん、中井さん両講師の講義を受け本受験に望まれました。

2009年も幅広くIP資格普及に向け、賛助会員の方々にご協力いただきながら新たなセミナーも企画すると共にCPD導入に向けた準備も随時進めていきます。

交流・事業委員会 委員長 佐々木 義則

私の委員長としての最初の仕事は総会後の懇親会でした。懇親会のことなどまったく頭になかったので「いきなり」という感覚を覚えました。前任者や事務局長及び副委員長他の方々の力をお借りしまして無事終了できました。その後、年間計画の作成を行いボーリング大会やショートフィルム監督とのトークショー等のイベントを開催することができ、まずまずのスタートアップと考えております。積極的にHIPAの活動に参加して下さる委員の方々へ感謝いたします。

HIPA内の親睦を深めることにとどまらず、関連団体との交流や職能団体としてのHIPAの活動を知っていただく為の事業の企画・実行を行うべく2009年度の計画を進めたいと思っております。

総務委員会 委員長 熊谷 幸雄

総務委員会は組織強化と円滑な運営のための活動をいたしました。会員の皆様のお声かけもあり、準会員・賛助会員として多数、新たに入会していただきました。ただし、インテリアプランナーの有資格者が増えていないのが現状です。今後、試験の受験者にも当協会のことを知ってもらおう工夫が必要かと思っております。そして、合格者の多くの方に正会員になっていただきたいのです。また、準会員の皆様にも資格をぜひ取っていただき、正会員として協力していただきたいと思っております。

新年会は札幌コンサートホール「テラスレストラン・Kitara」で盛大に行なわれました。53名のご参加をいただき、とても楽しい、パワフルな会となりました。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

情報委員会 委員長 内村 喜憲

新体制での情報委員会が活動始めて、もう一年が経ってしまいました。今回はIPニュース24号の発刊という事で、前任の会員の方々が継承・継続されてきたものが、私の代で途切れてしまうのではと心配しましたが、頼もしい人材に恵まれ、何とか発刊する事が出来ました。今期からIPECも情報委員会での担当となりました。2008年度の出展準備に掛かり今回出展を見合わせると、次回が無くなるとの思いで何とか2作品の出展を実現し、嬉しい事に吉本 亜矢さんの作品が大賞を受賞という快挙のご褒美も有り、大変有意義な1年でした。

New face



寺田みどり
勤務先:(株)アイ・ホームシステム
〒003-0839
札幌市白石区北郷9条8丁目2-13
011-876-2233
090-5077-7077

2級建築士



中村ゆかり
勤務先:スウェーデンハウスサービス(株)
〒064-0919
札幌市中央区南19条西9丁目2-28
011-513-7000
080-5584-6209

2級建築士 インテリアコーディネーター
ライフスタイルプランナー

財団法人 建築技術教育普及センター
北海道支部
〒060-0042
札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル6F
TEL:011-221-3150

アームテクノ株式会社
〒060-0031
札幌市中央区北1条東11丁目21
TEL:011-251-6616

アイカ工業株式会社 札幌支店
〒003-0006
札幌市白石区東札幌6条5丁目1-4
TEL:011-811-9201

株式会社あさひ製作所
〒062-0911
札幌市豊平区旭町5丁目2-7
TEL:011-811-6028

南小笠原工芸社
〒062-0039
札幌市豊平区西岡538-8134
TEL:011-582-8120

株式会社川島織物セルコン 札幌営業部
〒060-0009
札幌市中央区北9条西24丁目4-1
TEL:011-644-1188

カムイ・エン지니어リング(株)札幌事務所
〒060-0032
札幌市中央区北2条東3丁目2番地
TEL:011-281-5384

株式会社カンディハウス札幌
〒064-0946
札幌市中央区双子山4丁目1-10
TEL:011-511-0303

有限会社黄田印刷
〒064-0811
札幌市中央区南11条西17丁目1-2
TEL:011-551-0150

クリナップ株式会社 札幌支店
〒003-0023
札幌市白石区南郷通11丁目北1-30
TEL:011-864-8001

株式会社Hand Made
〒004-0867
札幌市清田区北野7条4丁目11-20
ホワイトヴィラ74 1F
TEL:011-888-1122

株式会社福住
〒065-0012
札幌市東区北12条東1丁目4-23
TEL:011-753-4555

北海道芸術デザイン専門学校
〒001-0027
札幌市北区北27条西8丁目
TEL:011-717-6949

北海道東リ株式会社
〒060-0062
札幌市中央区南2条西10丁目 アラゼンビル
TEL:011-214-8340

物林株式会社 北海道支店
〒060-0003
札幌市中央区北3条西2丁目10-2 札幌HSビル
TEL:011-271-1188

ヤマギワ株式会社 札幌営業所
〒060-0002
札幌市中央区北2条西1丁目10 ビア2・1ビル6F
TEL:011-221-1321

リリカラ株式会社 札幌支店
〒063-0832
札幌市西区発寒12条12丁目2-20
TEL:011-666-2125

小林商事株式会社
〒065-0013
札幌市東区北13条東1丁目1-10 TEL:
011-862-5740

株式会社札幌ファニチャー
〒061-1270
北広島市大曲279-70
TEL:011-377-2177

株式会社サンゲツ 札幌店
〒003-0011
札幌市白石区中央1条2丁目1-37
TEL:011-832-3111

シンコール株式会社 北海道本社
〒060-0051
札幌市中央区南1条東6丁目1-1
TEL:011-209-0123

大光電機株式会社 札幌支店
〒064-0804
札幌市中央区南4条西13丁目2-2
TEL:011-561-8067

ケント・ハウス株式会社
〒060-0809
札幌市北区北9条西4丁目18番地1 TEL:
011-746-5545

トソー株式会社 札幌支店
〒003-0012
札幌市白石区中央2条3丁目3-10
TEL:011-841-3731

株式会社トミタ
〒104-0031
東京都中央区京橋2-3-16
TEL:03-3273-7551

ニッポー・コーポレーション株式会社
〒060-0033
札幌市中央区北3条東3丁目KNビル 1F
TEL:011-242-3303

パラマウントベッド株式会社
〒060-0004
札幌市中央区北4条西5丁目1-4
三井生命札幌共同ビル1階
TEL:011-219-8800

東芝ライテック(株)北海道電材営業部
〒003-0023
札幌市白石区南郷通20丁目北3-28
TEL:011-868-2015

株式会社遠藤照明札幌営業所
〒003-0806
札幌市白石区菊水6条2丁目6-30
シャンブルドロー 1F
TEL:011-815-8161

株式会社タジマ 札幌営業所
〒060-0001
札幌市中央区北1条西13丁目4
タケダ札幌ビル 1階
TEL:011-231-8261

札幌斉藤木材株式会社
〒060-0041
札幌市中央区大通東2丁目15番地 フジミツビル
4階
TEL:011-231-2082

榎北川
〒065-0020
札幌市東区北20条東16丁目5-29
TEL:011-783-0181

榎ダंक 【新会員】
〒061-1274
北広島市大曲工業団地4丁目6-6
TEL:011-370-5301

(有)ライフクリエイクまがわ札幌事務所 【新会員】
〒060-0032
札幌市中央区北2条東3丁目1-2
札幌セントラルビル 4階
TEL:011-676-8121

榎アモウ 【新会員】
〒004-0839
札幌市清田区真栄363-25
札幌ハイテックビル真栄
TEL:011-887-4520

ピーエス工業(株) 【新会員】
〒061-1112
北広島市共栄41-3
TEL:011-373-2221

会員・賛助会員紹介

真下 優子さん

すてきなオフィスで、にこやかにお仕事をされている真下さん。現在のお仕事は、マンションのモデルルームのインテリアデザインが主です。年間7～8棟の新築マンションのモデルルームを担当するそうです。

真下さんは子供の時から自分の部屋を飾るのが好きだったと伺いました。小学生の頃から、自分の部屋のベッドをレースで飾ったり、家具屋さんを覗くのが大好きだったとか。京都の美大のインテリアデザイン科に進んだのも、ごく自然なことだったのでしょうか。

今までのお仕事で一番印象に残っているのは、東京の東麻布の住宅のデザインをされたことだそうです。設計者である村上憲一氏の意向で、今までできなかったことに思い切って挑戦することができました。著名な方のアート作品を京都で買い付けしたり、イタリアから取り寄せたり、また、塗り壁は京都から職人さんをお願いしたりしたそうです。寝室には、“当時商品化していなかった”光ファイバーの照明器具を特注でとりつけました。これは、オーナーさんの“飛行機の機内のピンスポット照明のイメージを再現してほしい”という意向を、何とか実現させたいと考えた結果です。全部を紹介できないのが残念ですが、“水を楽しむ”というコンセプトで素敵な空間に仕上げたのが右上の写真です。さながら“アート作品と溶けこむ空間”と表現できるでしょうか。

これからも素敵な空間をたくさん作って、更なるご活躍を期待しています。



渡邊 聖子さん

苦小牧在住の渡邊聖子さんの仕事場は昔建築金物店だったご実家の一階です。オープンなガラス面から見える事務所内には、趣味で集めた大量のインテリア雑貨がディスプレイされ、その奥にデスクスペース更に打合室スペース…かなり広いです！インテリアショップと間違えて迷い込んでくる方も…。渡邊さんは、ハウスメーカーで18年間インテリアコーディネーターとして勤務した後、自分の可能性を試そうと一念発起で独立し早4年。現在の仕事は住宅のコーディネート、エクステリアやガーデニングのプラン、ガーデニング教室、モデルハウスのディスプレイ等多岐に渡り、本場英国式の専門的なガーデニング資格も数々持った、エクステリアに強い方なのです。仕事のモットーは『徹底的な打合せ(雑談含め)』で、“いつも盛り上がり過ぎて時間が長くて!”とのこと。今特にはまっているのが“二胡(中国の弦楽器)演奏”と“切り絵”で、ピアノやフルーツ・フラワーアレンジや植栽etc。本当に多才多才で魅力的な女性です。お母様と犬のちび吉とロシア陸亀のガメラの二人& 2匹の楽しい家族!“苦小牧は田舎(一応工業都市)ですが、住めば都。樽前山の夕日も最高!是非遊びにいらしてください”とのことでした。精魂こめたお庭が綺麗な夏場が、必見のようです。

奥山 耕一さん

仕事は、物置から大型ホテルまで手掛けています。地元洞爺での仕事は、国立公園内という特殊な条件をかかえているため、環境庁との折衝や建築確認などをクリアさせる難しさがあります。そういった意味では、長い経験のなかで培ったノウハウと人脈をたくさん持っている事が、自分の強みと思っています。お客様と雑談をするなかで、相手がどんな方でどんな考え方をするのかを、そこから読み取ったりします。

物件には必ず予算の壁というのがあります。しかし、お客様はたとえ予算が少なくても、良くして欲しいという希望を常に持っています。お客様が“気に入ったからもう少しだけ予算上乘せしても良いかな”と思うような手に届く範囲の提案や交渉が必要ですね。プランを実現するためには、2つ大事な事があると思います。“交渉力を持つ”“デザインを崩さずにアレンジ(効果を失わずコストダウンを図る)する為のアイデアを出す”という事。そのためにも私は、国内外を問わず旅行に出かけます。旅行に出かけた時に心掛けているのは、“体で見る事”これは写真をバシバシ撮っても頭に残らないし、スケール感・ボリューム感が分からないからです。そこで出来る事を体で体験する事が大切だと思います。もっともポイントポイントでは写真撮りますし、気になるところはスケールを当てます。以前大浴場に入浴しながら、測ったなんて事もありました。測って書く・イメージを残す・体で感じるこれが大切です。プランのアイデアも、とにかく現地に行き、体で見て、現地でアイデアを出します。実際の仕事上でも『体で見る』というのは私にとっては絶対条件です。

現在奥山さんは、もう一度勉強がしたいと通信教育の大学に籍をおいてらっしゃり、様々な年代の方とスクーリングで出会う事が、とても刺激になるとの事。奥山さんと全く違う分野で名古屋で勤務している息子さんと、札幌市立高専で工業デザインを専攻後、NYにミュージカル留学し、帰国後劇団に所属してらっしゃるお嬢さんがいらしゃいます。様々な役職もしてらして、狩猟が趣味という、非常にアクティブで気さくな方でした。



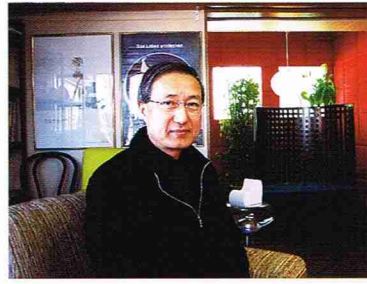
お嬢さんの公演パンフ





株式会社アモウ

札幌市清田区ハイテクヒルの一角にある水色の建物。アモウの事業をつたえるように優しく建っていました。病院福祉業界の抱えている課題に対し、従来のメンテナンス・設備工事会社と一線を画した独自の水のテクノロジーで空気浄化装置“すいえんくん”を開発しました「きれいな環境の北海道で育ったから、未来の為にきれいな空気と水と土を残さなければというのが原点」とおっしゃる天羽社長。今回インタビューのなかで「社長の考えるデザインとは？」の問いに『北欧のデザインに多く見られるように、デザインはシンプルで洗練されていてほしい。白物家電は、機能的でありながらコンパクトで目立たないでしょう』今後のアモウの目標についてお聞きしたところ、『21世紀は水の時代。今年“すいえんくん”の病気予防における効力をアピールする為、中国で開かれる上海万博の赤十字館へ出展し販路拡大を考えています。そこからアモウを世界へ発信していきたい』と素晴らしい将来のビジョンを語って頂きました。地球環境の為に、北海道企業としてますます発展して欲しいとエールを送りたいと思います。



株式会社札幌ファニチャー

今年で設立19年目を迎える札幌ファニチャーは、業務用のイス・テーブル等の販売・製造を主に行なっている会社です。取引家具メーカーも数多く、納品の早さと良質な家具の提供をモットーとしています。これまで青木社長は、“良い物をつくりたい”というこだわりから家具造りに関わる人々との出会いを大切に、製作家具に関しては図面段階から仕上がりまで丁寧な仕事をする事に力を入れてきました。また青木社長自身、独立前に勤めながら夜間の専門学校でインテリアデザインの勉強をするなどデザインにも大変関心があります。現在では年に一度イタリアで開催される“ミラノサローネ”への研修旅行に毎年社員を1名づつ参加させ、最新のインテリアデザインに触れる機会を作っています。そしてその事が、単に家具の販売・製造だけではなく顧客への新しい情報の提供と提案のできる社員の育成に繋がっています。クオリティーを追求し柔軟な発想をもった札幌ファニチャーは、我々インテリアプランナーにとってまさに心強い応援団と言えるでしょう。



有限会社小笠原工芸社

小笠原工芸社は、西岡の自然に包まれた場所にあります。併設する家具工場は、最終工程である塗装場まであり、たいへん大きな設備を備えています。会社理念を“技術営業”とする小笠原重男社長は、『若い職人達のパワーと熟練した職人の技術をもって良質な家具造りを目指した仕事に日々取り組んでいます』と話します。また、当協会担当者の三上輝さんに「事業内容は？」とお伺いしたところ『ホテル等の商業施設家具、パブリック家具、学校及び図書館家具、店舗什器、住宅家具などを作っています。言うなれば量産ものから一品ものまで制作できるのが当社の特徴です。近年は無垢材仕様の家具の要望が目立って増えてきていますね』と市場の傾向も教えて頂きました。また、同じく協会担当の小笠原浩太さんはNCルーター(コンピューターによる自動木材加工)担当責任者で次の事をお話し下さいました。『このNCルーターは優れたものなのです。作業工程の短縮や加工精度を要求される時に威力を発揮し生産性の向上に大変力を発揮してくれます』と……。

家具工作機械が進歩し続ける時代のなかで、若い職人達が熟練した職人の技を受け継ぎ、新しい時代に対応していく工場であり会社なのだと思えました。



ピーエス工業株式会社

国道沿いの広大な敷地をオフィスに向かって進むと、ヨーロッパ郊外の企業を訪れた錯覚に陥ります。工場とオフィス棟は築後30数年経過していますが、スウェーデンのコンサルタント会社が基本計画を手がけたデザインは現在も違和感のないモダンな美しさです。いわゆる空調設備の機械的なイメージとは一線を画します。

ピーエス工業は、一口で言えば冷暖房機器の開発・製造の会社ですが、グループ会長である平山敏雄氏の理念の下、“室内気候”を創る(屋外と同様に室内には第2の自然があり、それを人が健康で快適に活動できるよう整える)ことに取り組んでいます。(札幌工場敷地を取り囲む森は、工場を建てる時に社員の方たちが苗木を植えて育てたものだそうです!)。社風が一貫して、社屋にも、ここで生産されるPS・HSヒータのデザインにも現れているのが感じられます。当協会担当の大橋弘昌さんは、プロジェクト推進部長として企画開発に携わっていて、エンドユーザーと接する機会はありません。『IPを通してお客様の声を聞き開発に生かせたら』また『オーダーメイドである製品の特長を生かし、空間にぴったり合ったデザインを皆様とともに提案していきたい』とお話されます。オフィスと工場を繋ぐ廊下はウィンターガーデンと呼ばれ、室内庭園があります。大きなガラス面が内と外の境界をあいまいにし、森の四季の微妙な変化を肌で感じられる素敵な空間です。近い将来、PS・HRヒータと建築空間の更なる融合・応用的活用の拡大を目指し、勉強会を開きたいとのことで、この場所にまた来られるのが楽しみです。



会場風景

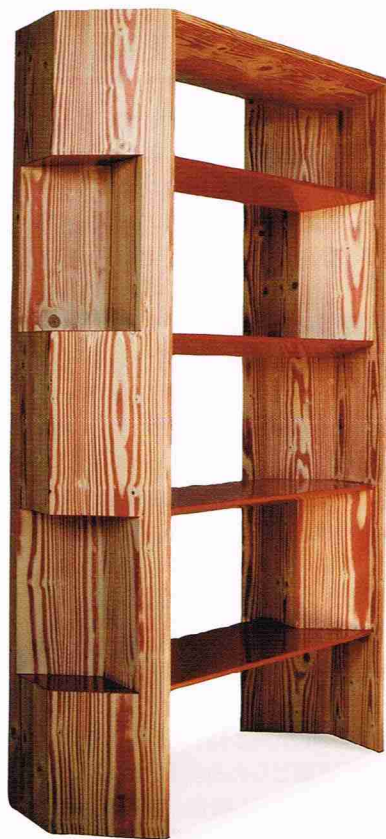
『IPEC 2008』開催状況と出展報告

インテリアプランナー協会の大きな事業のひとつであるIPEC(アイベック)は、IPをはじめ、多くのインテリアのプロ達の情報の受発信の場として開催される[国際インテリア展示会]です。今回で8回目を迎える「IPEC 2008」は、2008.11.19～11.22の4日間、東京ビックサイト西展示棟に企業・団体・コラボチーム他、合わせて約110ブースを揃えて開催され、約31,400人が来場しました。その中でも、「デザイナーズ・ショーケース」は様々な分野のデザイナー自身のデザインアイデアを関連企業とのコラボレーションにより提案・発表・発信する場です。今回はHIPAの関係者より2チームが参加出展し、その展示の審査の結果、有限会社Y.IMAGINE所属のデザイナー吉本亜矢さんの作品「IRO」が、「デザイナーズ・ショーケース 大賞」を受賞したのは本当に嬉しいニュースでした。今回参加されたお二人に所感をいただきました。今後もこれに続いてHIPAの皆さんの積極的な挑戦に期待します。

吉本亜矢さん!本当におめでとうございます!

《吉本さん所感》

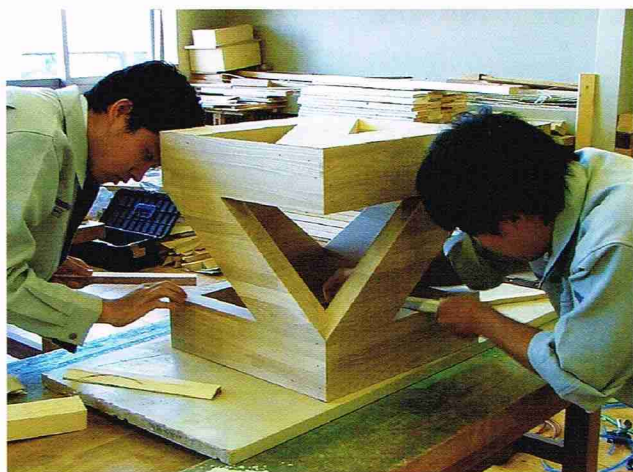
今回の作品のコンセプトで一番こだわったディテールは、折紙を折ってできたようなフォルムの外枠と棚板との接合により、両側面にも飾り棚として使えるような小さなスペースを作った事です。棚板の形状は見た目の整合性だけでなく、構造的にも考慮されています。材料は北海道立林産試験場で研究、開発された「色彩浮造り合板」を使用しました。色彩の出方は板の木目や浮造り加工の程度によって変わってくるので、最初のトドマツ材の選定、浮造り加工の微調整は専門の方々の知識と経験を結集していただきました。審査員の方の総評では「家具材としてはあまり活用されていなかったトドマツ材やカラマツ材を新しい方法と伝統的な方法(浮造り加工)の組合せで加工することによって斬新な材料に仕上げている」ということで、主に「色彩浮造り合板」を評価していただいたようです。外枠と棚板の接合の仕方にも関心を持っていただきました。普段からデザインをする時は手触りの良さを大切にしていますので、来場された多くの方が「IRO」を見るだけでなく、手で触れて浮造り加工の凹凸を感じて下さっていたのが印象的でした。今回はオレンジ色にしましたが「違う色でも見てみたい」という声も多く聞かれました。何色でも製作可



吉本 亜矢さん「IRO」



表彰式



小樽工業高校 生徒
ZENI CUBE 製作



IPECデザイナーズクラブ会場展示

能です、納期は材料から制作しますので、5～6週間程度になります。今後はもう少しコンパクトな家具にも展開していきたいと思っております。会場内では家具だけでなく、小物や空間演出等、様々なジャンルの作品が展示されていました。個人的には、素材から開発に挑戦している作品に興味を持ち、出品者の方々に制作のエピソードなどを伺う事で、新たな視点も生まれ、作品に深みを感じました。「デザイナーズ・ショーケース」は作品を展示するだけではなく、出品者同士が交流できる大変貴重な機会でした。今後もぜひ多くの方々に北海道からデザインを発信して頂きたいと思っております。

《白鳥さん所感》

「デザイナーズ・ショーケース」出展募集のお話を聞き、地元「銭函」地域の活動で展開していたZENI CUBE(BE HAPPY!)を急遽出展する事となりました。急遽3週間でコラボ製作企業が見つからず、残り1週間!という時、地元のNPO北海道職人義塾大学校さんに紹介いただいた家具職人の梶原さんの指導のもとで、小樽工業高校の生徒達が製作に協力してくれることになりました。地元の技能継承と共にデザインコラボしたことが話題になり、北海道新聞や地元タウン誌への掲載もありました。入賞への期待も徐々に膨らみ、会場設営時には小樽から先生の引率で5名の生徒がかけつけてくれ、地元FMおたるの電話取材を受けるなど、小樽と東京をつなぐデザインの力を感じました。来場の方にはポスターにある「銭函」の文字を見て立ち止まる光景が印象的で、特に高円宮妃殿下がご来場されお声を掛けていただき感激しました。残念ながら入賞は逃しましたが、北海道を代表して吉本亜矢さんの作品が大賞受賞された事は、何よりの励みになりました。さらに出会えた方々の笑顔が今も脳裏に焼きついています。印象としては、自然素材の持つ美しさを生かし今迄に無い表現をした作品が受賞されている印象でした。HIPA普及委員長をさせていただいている立場から、教育関係、地域の方々に少しでもIPへの関心を持っていただきたいと感じています。今回に合わせ作った中国語のポスターで北海道ブームに沸く「台湾」でコラボできないか台湾国営ラジオに売り込んでいます!

そして…今もJR銭函駅に縁起物として飾られ、ZENICUBEに座って写真を撮ると幸せになれるという伝説が広がっています。是非、銭函に見にいらしてください。

JAPAN FEDERATION OF INTERIOR
PLANNER'S ASSOCIATION
INTERIOR PRO EX CO 2008

JIPA IPEC 2008

「今感じている事・デザインするという事」

HIPAの会員をはじめ、今北海道のデザインをする場にいる若い方はどんな仕事をし、どんな風に考え、どんな風にデザインをしていて次の世代に何を伝えたいのか。彼等の視てる先を知りたいと、4人に集まって頂いて各自手掛けた物件の解説を交え画像を見せて頂き話を伺いました。



コンバージョンプロデューサー

佐々木 義則

- 1973 札幌生れ
- 1996 カラーコーディネーター取得
- 2001 一級建築士登録
インテリアプランナー登録
- 2004 スタジオ 未来 設立
北海道芸術デザイン専門学校非常勤講師
札幌商工会議所コンバージョン研究会所属

リノベーション・コンバージョンを中心に活躍

東口 圭

- 1973 札幌生れ
北海道工業大学建築学科卒業
東京で建築環境の設備・設計業務に携わる
- 2001 渡米 パーソنز美術大で建築を勉強しながら
Yoshi Design N.Y~インテリアデザイナー
- 2003 建築設計事務所 JG Architects 勤務
- 2004 帰国後 Archi-K 設立

住宅・店舗などジャンルを問わずに活躍



Architect



Directive Designer

- 1982 札幌生れ
- 2003 北海道中央工学院卒業
株式会社スベラ入社
- 2004 株式会社ココロ入社

店舗デザインを中心に活躍

吉川 悦王

- 2008 KIESWERK OPEN AIR
"Kunst, Konzerte und aktuelle Kinofilme" 第3位/ドイツ
Ingo Maurer とあなたが作る
"Zettel" 展 Ingo Maurer 賞/東京
第1回 ボルボ アート&デザイン
コンペティション2008 優秀賞/東京
- 2009 KU PO KA KUNSTLER/ドイツ
個展「Ice of the mountain」/札幌

千葉 有造



美術家

Q: デザインを意識始めたきっかけやエピソード、影響を受けた人や事を教えてください

(佐々木氏) 小学校1年の時に厚生年金会館を見て、建物が大きくて迫力を感じ、中に入ると天井も高く広くて、なんだか凄いと感じました。その時に空間が持っている力を感じたんだと思います。幼い頃近所の木材工場に行くと木の匂いや機械の音にワクワクした記憶があります。またその頃ブロック遊びが好きで建物の様な箱を作り内部に出来上がる“空間”に不思議な魅力を感じていました。そんな風に、空間とか建物とかに影響されていますし、綺麗だなと思います。小学校の文集の将来何になりたいかの質問には、建物を作る人になりたいと答えていました。

建築の仕事に就きたくて工業高校に進学し「高校生は募集してない。」と構造設計事務所に言われましたが、何とか食い下がって高校1年の時から、アルバイトに行きました。高校の授業で現場見学へ行きましたが、工事現場の薄暗さや作っている感にワクワクしましたね。構造設計の仕事をしてながら、IPの資格を取ろうと思ったきっかけは建築とインテリアの知識の証に資格を取ろうと考えたからです。IPの資格は一定以上の知識と経験を有しているという証になると思います。

(東口氏) 東京でオフィスビルの空調の設計など全くデザインとはかけ離れた、天井の中に隠れてしまう物を設計していましたが、「隠れてしまう機械の部分でもデザインを美しくしたい。」という意識を常に持っていました。それがきっかけでしょうか。その後3年ほどNYのデザイン事務所で仕事をしましたが、日本とはライフスタイルや仕事の進め方などが大きく違いまして、非常に影響を受けました。法律も違うしプロセスも違う、工事の進め方も違う。例えば天井のボードを貼る前に照明器具の穴を開けていたり、照明器具がついちゃったりして驚きました。大工が配管工事をするなど不思議な事もあり、施工技術は日本より劣るといふか、日本人の得意としている細かい作業や取り合い部分などは、ある意味無視してしまって、ボリュームで全体を見せるという感じ、でも出来上がると物凄くドラマチックでカッコいい空間が出来る。そんな様々な経験が、繊細なA型タイプだった僕を、大胆でyes noがはっきりしているタフな人間に変えたと思います。

(千葉氏) 美術教員の母に影響を受け、美術というより美術教育というのを受けて育ちました。立体とか絵画とかというジャンルに隔てなく好きでした。中学校では部活にのめりこみアートからは一度離れますが大学受験は美術系の学校へ進もうと、決めていました。そんな時ディオールデザイナー“ジョン・ガリアーノ”をテレビで目にして、その奇抜なデザインとカッコよさにあこがれ、ファッションに興味を持ち始めました。道内の大学へ進学、ファッションをやりたいと教授に告げましたが、デザインの教授のアドバイスもあり、彫刻の先生に「服をやりたいければ彫刻をやってからやりなさい」と言われ、その方に教える事になりました。その先生が建築などにも興味がある方だったのでその方の影響は大きかったと思います。

(吉川氏) 3人兄弟の末っ子で、一人部屋に憧れて一人部屋を持つことが出来た時に、お年玉を持ってはソファを買いに行ったり、当時出ていたインテリア雑誌やお部屋改装の雑誌を買ったりして、自分なりに部屋をいじるのが大好きでした。図面を描く授業の時にソファを配置する事やどこに何を置いていこうかが楽しく、インテリアを勉強できる専門学校に進みました。専門学校卒業後に今勤務している店舗デザイン事務所の前身に就職、それ以来デザインにずっとのめり込んでいます。影響を受けた身近な人は入社当初に教わった先輩です。店づくりをする時の見方・考え方・仕方を今も継承しているところがあります。また、橋本由紀夫さんに非常に刺激を受けます。文化を大事に、伝統を継承している感じ、特別“ここ”という主張をしていない様で空間全体をデザインしていて、いつ見ても飽きない完成度の高さに魅かれます。素材使いも上手で斬新、視覚的に来た人を刺激するような見せ方、収まりや施工も非常に綺麗な点などが、素晴らしいなと思いますし影響を受けますね。



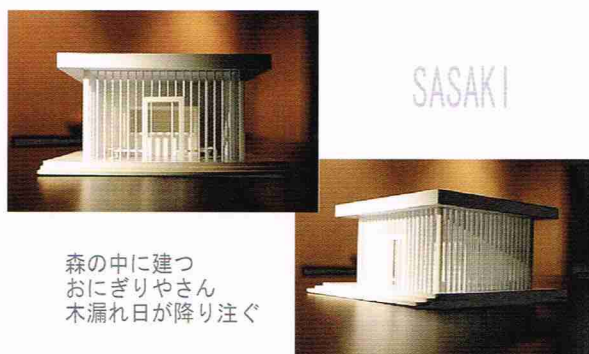
人通りの少ない路地に面した店
ドアなどはNY
から取寄

HIGASHIGUCHI



Q: デザインする上で気をつけている事や譲れない事はありますか？

(佐々木氏) 光とか風とか、その空間で聞こえるであろう音を意識します。予算内でアイデアをどう具現化するか、ここは戦いですね。以前レストランのオーナーからこんなことを言われたことがあります。「色気のあるデザイナーに仕事を頼みたい」ってね。飲食の場合、特に夜営業のお店では色気が大事ですよ。しかも成果物に限ったことでなくデザインする人にその要素があるかどうか重視しているという事を体感しました。結局その時は仕事を依頼してもらえませんでした。色気が足りなかったんですね。今後の課題にします。(笑)



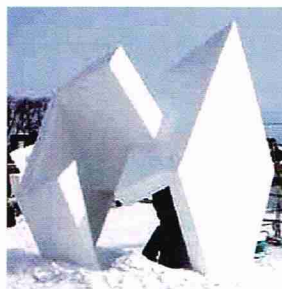
森の中に建つ
おにぎりやさん
木漏れ日が降り注ぐ

(東口氏) 建築と店舗では多少違うのですが、店舗はどちらかというと短期間で回っていくような形、建築は耐久性に重点を置くなど、お金をかける所のバランスが違います。特に建築だとクライアントの要望する事、北海道なら「暖かい家に住みたい」という様な性能を重要視しています。性能を重視すると既製品を使いがちになるのですが、既製品を使わずに全てオリジナルで製作します。美しさを追求すればするほど、機能性を兼ね備える事が難しくなってくるのですが…既成の物は使わない。全てデザインします。

また、自分で納得がいけないデザインを引き渡したくないので、ギリギリまでします。常に自分の目と第三者的な目を持っていて、他人の目から見たらどうか？と見ていますし、最終的には元に戻るかも知れないけれど色々な可能性を考えて試行錯誤します。後悔することは絶対あってはいけいないので、トコトンやります。ですから後で思い返しても、あの時はあれしかなかったと思います。

(千葉氏) 「現実的であるより理想的であれ」という恩師の言葉です。「時間がなければお金をかける。お金がなければ時間をかける。出来ない事はない。お前の仕事は美術家だ。美術家にとって不可能な事はないし、特に彫刻家に造れない物があってはいけいないし出来ない事があってはいけいない。1つでもあるうちはおまえは彫刻家ではないし美術家でもない。」と言われました。ですから、オーダーで頼まれた仕事も自分で造る仕事も、“自分でこんな風にしたい”という事を最優先にしたいと思っています。依頼された仕事でも、少なくとも第三者から「予算が無かったからここまでしか出来なかったんだらう。」と思われたいような物を造りたいと思います。

(吉川氏) エゴイストになり過ぎないように気を付けています。もちろん自分が“こう”と思って譲れない点はあるのですが、コンセプト・ターゲットなどに合わせてプランを出す事。それに合わせて感受性を高めていく事にも気を付けています。もちろん予算にも気を付けます。



-30℃以下の中3mの
キューブ状の雪を削る
参加資格はアート系のみ
仕上はペーパーを掛ける



MDFをアクリル塗装で

CHIBA



映画セットに使用されたアクリル画

Q: インスピレーションやアイディアはどんな所から出ますか？

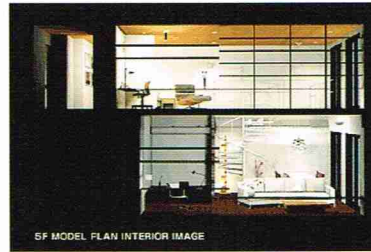
(佐々木氏) 普段考えた事のない様な空間に自分がいるという、リアルな夢をたまに見たりします。大概は起きるとスグ忘れてしまうのですが、覚えていた時はとても不思議な感覚です。“あの時の夢”を思い出して利用する事がありません。他のデザイナーの仕事をよく見ると「これをやるとあの人のマネになってしまう…」等と自分の創作の幅を狭めてしまう気がして、あえて見ない事が多いかも知れません。

(東口氏) きっかけは突然来ます。そのため普段から意識している事は、悪い刺激を与えるものは見ない事です。デザインの悪い空間、レイアウトの悪い雑誌は見ません。オランダ建築が好きなので、雑誌などは海外から取り寄せて見えています。昔デザイナーの先輩が僕のデザインしたのを見て、“どこかで見た事があるデザインだねと言いましたが” 当時そういう事を言われると少し腹が立ちましたが、世の中に誰かの影響を受けていないものは無いと思います。例えば、音楽でも聞いたことのないような曲などありえないし、ビートルズの影響を受けていないロックミュージシャンはいるのか？と思います。デザインも絶対にどこかで見たことがある物だと思っています。今は自分の中に尊敬している建築家の影響がある事は嬉しい位です。自分なりの解釈で、より良いものを造っていけば良いと考えます。厳しい世界ですが、やりつくされてはいないし、自分の出来る事は沢山あると思っています。

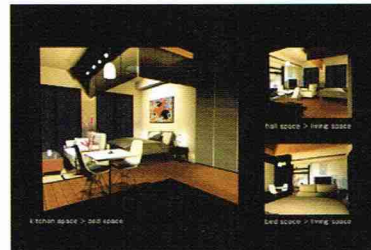
(千葉氏) 自然現象や動植物の構造から発想を得ます。スイス人アーティストのウルス・ティルマンの作品及び思想に興味があります。彼は山奥や海辺、砂浜などに一人で滞在、そこにある素材だけを材料に、巨大なオブジェを製作します。自己と自然の調和や対決といった姿勢に共感します。

HIPA 企画対談

今感じている事・デザインするという事



SASAKI
古いビルを SOHO のイメージで
リノベーションプラン



(吉川氏) 物をよく見る様にしています。デザインをする環境は大事だと思いますが、自分はあまり机に向ってアイディアを出すという事はしません。休みの日に本屋へ行きアートデザインの本や情報誌などを見る時帰宅してホッとくつろいでいる時に、こんなの面白いなとアイディアが出たりします。

Q: 吉川さんは若いのですが、ターゲットが50～60代のリッチな方という時のアイディアは？

(吉川氏) 高級なホテルを調べる、そういう方の行く店にお金を払ってでも自分で行ってみて周りの方達を観察するなど、サービス・動線・通路や席の間隔や小物の置場などまで結構細かく見えています。そういう意味では自分に投資しています。更に、そのクラスの方をターゲットに発行されている雑誌をみたり、プレーンにヒアリングしたり、意見を頂いたりします。

Q: 似たような飲食店が数多い中でどうやって差別化を図りコンセプトを生み出すのでしょうか？

(吉川氏) 自分でも過去と同じような物をつくるのは面白くないので、自分自身をさらに掘り出します。困った時は例えばイタリアンの店なら、イタリアンと関係のある物をどんどん書き出してみ、その中からどう内装に繋がるのか、とことん出して連想を広げると、本当に苦しみながらですが、どこかでパッと繋がったりします。発想は単純だけれど、内装として昇華させる難しさがあります。

Q：今の仕事をしていて難しいと思う事や時は？その克服方法があればそれを教えて下さい。

（東口氏）変更の多いクライアントは難しいです。NYへ行った事で自分がはっきりとクライアントに良い・悪いと意見を言えるようになった部分は大きいのですが、なかなか度重なる変更を止めるのが、難しいです。

僕も自分の中で実験はしますが、人が住めないような実験的な建物は建てないし、雑誌に載って業界の人をびっくりさせようという気もありません。住宅だとそこに一生住むのですから、建築家のエゴとか度が過ぎるものはやりませんが、逆に最近のクライアントはこだわりを持った方が非常に多くて、こちらがびっくりという事もあります。

（佐々木氏）クライアントがイメージした空間と自分の持っているイメージとのギャップを見極めて埋める事でしょうか。あと予算との戦い。これは皆さん同じなんでしょうね。実績を増やす事でクライアントの安心感に繋がったり、自分にも自信がついたり、そうやって克服するのが理想的なのではないかと考えています。

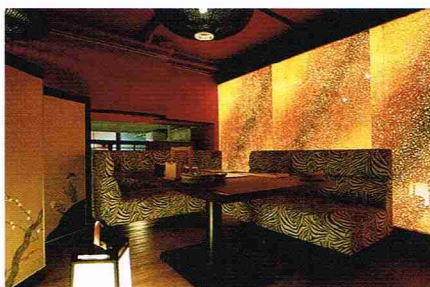
江戸の遊郭をコンセプトに



壁の中に金魚鉢

YOSHIKAWA

2F個室はがらりと
雰囲気を変え、
ゼブラ柄ソファなど
さらに遊びをプラス



（吉川氏）予算とオーナーの想いの開きが大きいと、それをどうにかする事が難しいですね。今商品としてそこにあって、値段が付いているものを買う訳ではないので、無いところから作るのですから……。コストを掛けずに良く見せるという事。克服方法は、バランス・予算配分・照明を上手く使った見せ方など、経験といかに知識を持っているか、アイデアを出すかですね。

（千葉氏）頭の中にあるアイデアが、形にすることによって当初のイメージを失っていく時に造形の難しさを感じます。素材の研究や先人の例を勉強していくことで乗り越えていければと思います。



どれが実物でしょう？
（1つは実物）
緻密なCGはここまで
キッチンと仕事をします
とクライアントに訴求
したいからの事



SASAKI

Q：今の仕事について良かった事・楽しいことは？

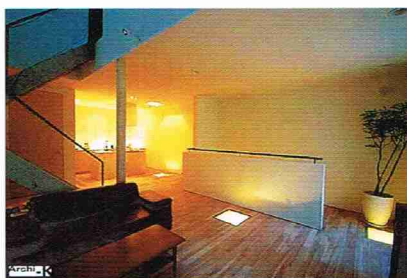
（千葉氏）作品が完成した時の充実感が喜びです。

（東口氏）デザインすることが好きだから、いつも楽しいです。僕はとてもポジティブなのでいい事だらけです。例えばまず人の言う事を聞かなくていい事。ボスからああしろ、こうしろと言われたくないので（笑）だから独立したと思うのですが。また人から「こんな物使うの？」と言われる事もありますが、素材は値段が全てではなく、安くても見せ方使い方で良く見えます。そこがデザインする醍醐味だと思っています。

(吉川氏) 人との繋がり、ゼロから作る楽しさ
出来た時の感動や感覚などです。最初は紙上
で、それがパースになって現場が動いて、お店
が出来て、そこにお客様が入ってまた違う雰
囲気になって、それが良ければ、また同じ方が
仕事の依頼をして下さるとい喜びがあります。

仕事の中では凄く苦勞をしていて、正直嫌
になることもあるのですが、その喜びがあるから
こそ、この仕事を続けられます。他に仕事を
知らないからかもしれませんが、他にこんな喜び
の大きい仕事ってあるかな?と思います。

正面は優しい
感じで仕上げ
木材を使用



四角い強化ガラスの箱は
明り取り~照明を仕込み
夜は照明器具となる



HIGASHI GUCHI

Q: 今はアートやインテリアなど様々な物がボーダーレスとなって来ていて、今まで違う分野とされてきている方も、ご自身のいる世界に入ってきていると思いますが、その事をどう感じますか? またその中で自分の役割や出来る事・位置づけなどをどう考えていらっしゃいますか?

(千葉氏) ボータレスな価値観、もしくは活動
はそれ迄に無い多様な発想を導きます。しかし
同時に、専門職特有の審美眼が曖昧になってい
く危険も孕んでいると思います。美しさや面白
さというものがクオリティーを伴って表出する
ように提案する側も消費する側も考えてけれ
ば、一層良い物が生まれてくると考えていま
す。

(吉川氏) 凄く良い事だと思います。それぞれの
見方が違うし、考える視点も違うので非常に良
い刺激になります。僕は店舗インテリアだけ
ではなく、将来マンションや住宅もやっていき
たいと思っているので、完璧に建築の方とがっ
りタッグを組んでしてみたいと思っています。

(佐々木氏) クライアントに喜んでもらった時
ですね。昔は人に喜んでもらえる事が仕事の喜
びと聞いた時に「本当に心の底からそう思っ
ているのかな?」と思った事もありましたが、ク
ライアントの満足や喜びは、自分がこの仕事を
して本当に良かったという喜びになります。勤
めていた時よりも、直接的に仕事を受ける立場
になって以前よりずっと強く感じるようになり
ました。そしてそれは自分の仕事の評価でもあ
りますので。とても気になります。

(佐々木氏) 多くの人の仕事を見る機会が増え
、刺激を受けます。成果物として、他の人と同
じような仕事をしたとしても、そのプロセスに
は個性が出ると思いますし、自分は自分なりの
仕事をして、結果クライアントに喜ばれ、社会
での存在意義を示せばと思います。

(東口氏) 一般の皆さんはボーダーレスと思っ
ているかもしれませんが、本当にそうでしょう
か?

アーティストは、イメージのスケッチは出来ま
すが、建築は法の規制が多く、構造など難しい
部分も多いので、コラボしなければ出来ない
と思います。環境工学を知らなければ、技術的な
部分を知らなければ・・・光や熱を知らな
ければならぬ中で、アーティストがそのイメ
ージを形にするには建築家などのプロが絶対必要
です。本当の意味で専門職がボーダーレスになる
事はないと思います。

HIPA 企画対談

今感じている事・デザインするという事

Q: これからデザインの仕事をしたい方、若い方、生に望むこと伝えたいこと言いたい事は？

(東口氏) 子供を持ち、色々勉強できた部分があり、子供達が学ぶ環境づくりを自分たち大人がサポートしてあげなくてはと思います。自由にきっかけ作りをしてあげたいと思います。学校教育につながる事は自分一人ではできない事なのですが、外国の学校では良い物に実際に接する機会を教育上与えています。日本ではそういう部分が欠けているのかなと思います。雑誌やネットも大事ですが、実際に良いものを見て欲しいし感じて欲しいと思います。

(佐々木氏) 若いうちはチマチマ貯金するより自分自身への投資の意味で1人で海外旅行に行つて欲しいです。旅の感動というのは、10代でしたら、10倍20倍にも感じられると思う位大きいのではないかと思います。建物を見るだけでなく“異文化の人と触れ合う”“色々な物を見る”という目を持って、それから社会に出て活躍して欲しいと思います。今はインターネットで簡単に色々海外の情報など手に入りますが、実際に体験して“生の感覚”を感じてもらいたいですね。たくさん感動した人ほど将来優秀な人間になるのではないのでしょうか。

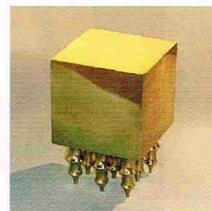
Q: 何か想いや理由があって、札幌でお仕事されていると思いますが、北海道で仕事をする魅力は？

(千葉氏) 札幌が好きだからです。ヨーロッパを各地廻り、仕事で何ヶ月か滞在したりなどもしましたが、それでもやっぱり札幌は過ごしやすいです。「お前はシャケだね」と言われたりするんです。生まれた場所という気持ちが大きいです。

(東口氏) 生まれ故郷だという事、物が美味しい、水がうまい事。食べる物が美味しいというのは、生きていく上で重要です。こんな素晴らしい自然や食材が揃っている街です。でも欠けている部分が未だあり、その部分に自分のチャンスがあると思います。僕は、札幌だけで終わるつもりは無く、東京から海外ではなく、札幌から世界に発信していく、札幌とNYを繋げて行くヨーロッパを繋げて行くという事が出来るのではないかと思います。

(吉川氏) 僕は楽しむ事を第一条件にしている、あまり仕事と思ってないのと、遊びが仕事という部分で日常から生まれてくるアイデアをととても大切にしています。モノづくりをしている方は、それぞれ個々の楽しみ方があるので、楽しむという事を考えながらやってもらいたいです。

(千葉氏) 本を読んで欲しい。ネットだけに頼らないで欲しい。表層的な情報や画像だけで「知っている」という事と「学んだ」という事は違うという事を考えて勉強して欲しいと思います

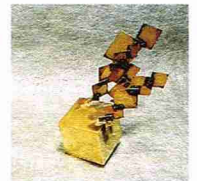


彫刻から始まり今は美術家
無垢の真鍮の芯材を使用した作品
無垢で造る1つの意実は
素材の重みを手にしなくても
分かって貰えると思うから



CHIBA

アクリル板の照明器具
ある店舗用にデザイン
今は発展系の物をドイツ
の展示会などへ出品



(吉川氏) 駆け出しなので札幌にいます。(笑) 今は特にこうという理由はありません。札幌に特にこだわっている訳ではなくチャンスがあれば色々な所でやって行きたいという気持ちがありますので、その後で札幌の良さというのが分かるのではと思っています。

(佐々木氏) 札幌で生まれて育ったからという理由が一番です。建築の人達はよく札幌とフィンランドと比べたりしますが、将来的に札幌がフィンランドの様にデザインの優れた街・優れたデザインを見極める人達が多い街になったら良いなと思います。

HIPA 企画対談

今感じている事・デザインするという事

Q: 今日画像で初めて他の方の仕事をご覧になりどう感じましたか？

(吉川氏) それぞれ仕事の受け方が少し違うような気がします。店舗というのはどちらかというと遊びに重点を置きます。現実的に店舗の売り上げに貢献してくる様な事、多数の一般ユーザーにどれだけ寄れるのかという事ですが、それが大事ですので、プランする時考え方の違いが、非常に参考になりました。

(東口氏) コンセプショナルな空間を依頼されたとしても自分テイストに持っていきすぎてしまうような気がします。店舗中心のところは 色々なテイストでやられますよね。色々なスタイルで、初めて来たのに初めて来てない感覚になるお店を作ったりするのは、凄いなと思います。同じデザイナーと言っても自分とは全然違うと思いますね。会社を立ち上げてからは、自分に意見を言ってくれる人に会う事、人の話を聞く機会を持つ事に努めています。こうして他の方と交流する機会を持つと、初心に帰る気持を大事にしてデザインする事を目指していかなくてはならないと改めて思います。出会う事でインスパイアされて、思いもなかった自分の考えとか引き出されたり、物の見方が変わったり、自分中で今と昔では違う部分が凄くあると思います。経営しながらデザインする事は、デザイン以外の余計な事も考えなければならないのですが、経営者の考え方や気持ちを理解できるという事ではプラスです。

(佐々木氏) デザインするのと経営するのは相反するようなことがある様な感じがします。デザイナー、クリエイターの立場ですと、あまり数字の事を考えるよりも、理想を求めてやるべき事があるとは思いますが経営の事も考えると現実的な落とし所を見つけて、やっていかなくてはならないという事もあり、発想が頭打ちしてしまいそうな時もありますね。イマジネーションはどんどん膨らむけれど、現実の事を考えるとココでストップしておこうというのを考えなくてはいけない時もあるというのは、デザイナーであり経営者である人が皆同じ様に感じているのではないかなと思います。

(東口氏) そうですね、難しいですね。ある物件は予算的にギリギリのところまで行き、最終的に工務店には頼まないで、自分の所で建てました。建材が足りなくてホームセンターに行く、ねじ一本まで金物屋と取引する、ある意味究極の建築だったと自分で思います。とても大変でしたが、自分で変更したら変更した材料を発注、ボードを何枚頼むとかの意識も出来たんです。多分そんな事をする人はいないとは思いますがこういう事なのかと勉強になりました。本当に予算的に追い込まれたらこの位やらなくてはダメなのかと…それを乗り越えて怖いものが無くなりました。



皆でオーナーの実家の漁師宅に泊りイメージを共有して造った

YOSHIKAWA



ターゲットは女性の焼肉屋キラキラ感やセレブ感演出

話を伺って皆さんが誰もと同じ様に予算・期限など様々な壁に当たり悩み苦しみながらも乗り越えている様子が伝わりました。そして、その中でもこれだけは譲れないという、各自のコダワリドコロが垣間見られました。

残念ながら時間が押して、更なる話は懇親会などで色々伺う事となりましたが、店舗などに行った時にチェックする拘りの場所、一番自分が気になる空間の話、NYの生活(まさに某TV番組その物らしい)、踊って競うアート~社交ダンスの話、現場の話、-35度体験(鼻毛が凍って刺さり鼻血が出る??)などインテリア・建築・アートの話の合間に、遅くまで沢山伺えました。聞き進むにつれ、皆さんの常にチャレンジをして、経験値を上げ、より一層充実した物を造って行きたいという熱い気持ち。ジャンルは多少違っていても物を造る喜びは一緒、アートやデザインが大好きという気持ちがとても大切なのだと伝わり、初心に帰った一日でした。

HIPA

北海道インテリアプランナー協会
Hokkaido Interior Planners Association

協会案内

1987年、建設省の告示に基づきインテリアプランナーの資格制度が発足し、その後インテリアプランナーの重要性が認識されるとともに、日本全国で資格取得者が増加してきました。

北海道インテリアプランナー協会（略称：HIPA）全国初のインテリアプランナーの資格団体として1991年に設立されました。その後、全国各地でインテリアプランナーの協会が発足すると、1998年には全国の協会を統合した日本インテリアプランナー協会協議会が発足しました。その後2004年12月に法人日本インテリアプランナー協会が設立されました。

協会では、インテリアプランナーの知識向上に始まり、一般的なインテリアに対する知識の普及や啓発を通して社会に貢献することを目標として、研鑽の日々を送っています。

会員の特典

- 会員証が発行されます
- 各委員会活動、各事業に参加できます
- 見学会・研究会・展示会ツアーなどに参加できます
- 会誌・会報・会員名簿など刊行物やメールの無料配布を受けられます
- ウェブサイト上で会員専用の情報を得ることができます
- 賛助会員（企業）からの製品情報やイベント、展示会案内をうけられます
- 会員証の提示により、文具店などから製品購入の割引があります
- 賛助会員にとっても会員に関する情報を得ることができ、活動に参加することで会と会員に密接にコンタクトできます

	会 費	
	入会金	年会費
正会員	10,000円	12,000円
準会員		8,000円
賛助会員		20,000円を一口とする
学生会員		5,000円

入会案内

インテリアプランナーの能力を結集して各自の専門知識・技術の向上に努め、自らの社会的地位を確立するとともに、会員相互および内外諸機関との交流等を通じて社会と文化の発展に寄与することを目的とし、そのための活動を行います。主に北海道で活動されているインテリアプランナー協会（略称：HIPA）への入会をお勧めいたします。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://hipa.biz/>

平成21年度インテリアプランナー試験日程

- 試験案内配布開始：5月11日（月）
- 設計製図試験の設計課題公表：7月31日（金）
- 受験申込書頒布：7月31日（金）～9月18日（金）
- 受験申込書受付：8月3日（月）～9月18日（金）
- 試験日：11月15日（日）（学科試験及び設計製図試験）
- 合格者の発表：平成22年2月12日（金）頃

詳細については、(財)建築技術教育普及センターが5月11日より配布する「平成21年度インテリアプランナー試験案内」をご覧ください。なお、同試験案内は当ホームページにも掲載します。

設計製図試験・直前講習会のご案内

北海道インテリアプランナー協会では、インテリアプランナー試験直前講習会を実施しております。昨年度も、この講習会からの合格者が出ています。

【講習会概要】

名称：インテリアプランナー試験（設計製図）講習会
日時：平成21年10月31日（日）予定 9:15～17:30
内容：設計課題に沿って講師が指導

- ・ 受験の心得（時間配分、試験会場の雰囲気他）
- ・ 平面図兼家具配置図・透視図・断面図・その他

【今年度の講習会のお問い合わせ先】

北海道インテリアプランナー協会 事務局

TEL・FAX：011-765-3309

URL <http://www.hipa.biz/>

E-MAIL：mail@hipa.biz

国民健康保険加入のご案内

個人事業主の方々に朗報です

北海道インテリアプランナー協会 会員向けの保険組合『文芸美術国民健康保険組合』日本インテリアプランナー協会として表題の組合に加盟しました。北海道インテリアプランナー協会の個人事業主の方はこの保険組合に加盟できます。

医療保険料	21年度	月額13,500円(前年 13,200円)
家族介護保険料	〃	月額6,100円(前年 5,900円)
介護保険料	〃	月額2,400円(前年 2,400円)

【保険加入資格】

- 日本インテリアプランナー協会が各地域協会（北海道インテリアプランナー協会）の会員であることを承認する。
- 各地域協会（HIPA）の会員であること。協会会長の承認印が必要
- 各地域協会会費の滞納が無いこと。

【加入手続き】

- 保険組合との手続き窓口は関西インテリアプランナー協会が行う。
- 申込は各地域協会の事務局へ申し込み依頼をする。

- 後日申込書などを事務局から郵送する。
- 申込時期は随時。

【入会金と事務費】

- 入会金は17,500円(税込み)とする。内7,000円は事故に備えて供託金とし、退会時にはその時点で総額金を組合員総数で割った金額を返却する。
- 事務費は年間2,500円(税込み)とする。一年毎に関西インテリアプランナー協会の指定銀行に振込。